

2018（平成30）年度

地域連携センター一年報

津市立 三重短期大学

目 次

地域連携センター事業を振り返って

I	平成30年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1	生涯学習機会の提供		
(1)	オープンカレッジ	・・・	2
(2)	地域連携講座	・・・	7
(3)	みえアカデミックセミナー2018	・・・	8
(4)	出前講座	・・・	9
(5)	プログラミング講座	・・・	12
(6)	講座開催一覧	・・・	13
(7)	科目等履修生制度	・・・	15
2	高等学校等との連携		
(1)	高大連携校との高大連携	・・・	17
(2)	一身田中学校図書館ボランティア活動	・・・	18
(3)	市内学校への図書指導事業	・・・	18
3	産学連携の推進		
(1)	株式会社三重銀行及び株式会社三十三総研との産学連携	・・・	19
(2)	三重短期大学シーズ集「みえたんの種」の活用	・・・	23
4	市政との連携		
(1)	政策研究・研修	・・・	24
(2)	市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	27
(3)	審議会、委員会委員への参画	・・・	29
5	地域の大学との連携		
(1)	三重大学生物資源学部との連携	・・・	34
(2)	三重大学教育学部家政教育コースとの連携	・・・	34
6	学生による地域連携		
(1)	地域連携サポーター制度	・・・	36
(2)	津市消防団学生機能別消防団員	・・・	37
(3)	三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	37
(4)	513 BAKERYとの連携	・・・	38
(5)	「コンセプト部屋」デザインの提案・発表	・・・	39
(6)	美化デー	・・・	39
II	資料		
1	施設開放	・・・	40
2	三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	42
3	平成30年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	48

本学は、津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げ、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008年4月に、地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長の他に担当の事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講している他、「出前講座」も行っている。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7月から11月に、毎月1回、土曜日に2講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、本学の教員がコーディネーターとなって学外から講師を招き、市民の方に対して、地域の身近な話題を専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年2回開催している。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね15名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は、2008年3月に三重県立亀山高校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010年3月に三重県立津商業高校と、同6月に三重県立相可高校と、2012年1月に三重県立みえ夢学園高校、三重県立久居高校と高大連携協定を締結し、現在協定締結校は5校となっている。一方、株式会社三十三総研から資金を得て、三十三総研（2017年までは三重銀総研）と本学の共催で、学生を対象とした「小論文・作品コンクール」を2007年から毎年開催している。学生からの応募数が増加してきており、学生の間に定着してきている。「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015年度に文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、三重県内の14高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」を設立し、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの事業は年々拡大してきているが、それを持続可能なものにするには事業を支える組織の強化が不可欠である。今後は、この点への取り組みが課題となるように思われる。

I 平成30年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、平成30年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952（昭和27）年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008（平成20）年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を立上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

(1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3) 産学連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。そして平成30年度からは、小中学生向けに「プログラミング講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多くの利用があった。

(1) オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、引き続きオープンカレッジを開設した。

月1回2講義を5か月間、本学教員がアラカルト形式にて実施し、全10講義のうち8講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア 「地域共生社会」について考える

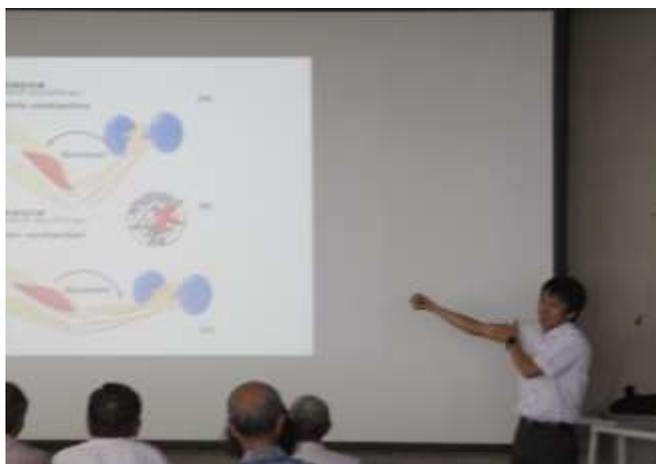
- ① 開催日時 平成30年7月7日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 「地域共生社会」が、社会保障・社会福祉での新たなキーワードになっています。この「地域共生社会」とはどんな社会で、私たちの暮らしとどのようにかかわってくるのかを考えていきます。
- ④ 参加者数 46名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 准教授 武田 誠一



イ 頭と体を良くする運動と栄養

- ① 開催日時 平成30年7月7日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 運動と栄養により、身体は良くも悪くもなります。

- ④ 本講座では、脳、筋、脂肪、骨に関することを中心に、運動と食事によって良好な状態を導く方法とその根拠をお話しします。
- ⑤ 参加者数 60名
- ⑥ 担当教員及び講師 生活科学科 助教 相川 悠貴



ウ 骨の健康を守るために

- ① 開催日時 平成30年8月4日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 超高齢社会を迎え、多くの人が生涯健康な生活をおくるために、骨の健康を維持することは重要です。特に女性はホルモンの変化に影響されるため骨量の減少が顕著であり、骨粗鬆症患者の7割は女性です。骨の健康を維持するための食習慣や生活習慣について、ご紹介します。また、ご自身のカルシウム摂取状況や運動機能を確認し、骨の健康について考えてみましょう。
- ④ 参加者数 56名
担当教員及び講師 生活科学科 助教 杉野 香江



エ 妊娠中に気を付けたい食生活

- ① 開催日時 平成30年8月4日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 45番教室
- ③ 概要 妊娠中は、赤ちゃんの成長に沿って食べる量を増やしていく必要

があります。しかし、食べ過ぎや栄養のアンバランスは、母体や赤ちゃんの負担になることも。本講座では、妊娠中に気を付けたい食生活についてお話しします。

- ④ 参加者数 30名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 准教授 阿部 稚里



オ 音楽を通してみるドイツ語の詩—ゲーテの『魔王』を中心に

- ① 開催日時 平成30年9月1日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 ゲーテの詩『魔王』をもとにシューベルトが歌曲を作ったことは有名だが、他にも様々な『魔王』が存在する。この詩と歌曲の成立背景についての解説と、歌曲の鑑賞を通してドイツ語と音楽の響きとリズムを味わいたい。
- ④ 参加者数 47名
- ⑥ 担当教員及び講師 法経科 准教授 今本 幸平



カ 地方議会のいま

- ① 開催日時 平成30年9月1日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 近年、自治体住民の代表機関である地方議会をめぐる状況が厳しさを増しています。政務活動費のあり方などにみられる住民の批判をはじめ、議員の担い手不足といった根本問題も浮上してきています。地方議会の現状と将来展望について考えてみたいと思います。

- ④ 参加者数 46名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 立石 芳夫



キ 日本経済はなぜ「停滞」したのか

- ① 開催日時 平成30年10月6日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 日本経済は1980年代までは順調な成長を続けましたが、以降は長期の「停滞」を続けています。その原因はなぜなのかを、時代毎の日本経済の成長要因を統計的に検討し、どのような変化が生じたかを見ることで考えます。
- ④ 参加者数 54名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 准教授 田添 篤史



ク 相続の仕組みについて

- ① 開催日時 平成30年10月6日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 相続においては、だれがいくら相続できるのか、亡くなった方がすべての財産を一人にだけ託すことができるかなど、様々な問題があります。本講義では具体例を用いて、相続とはどのようなものであるか、その全体像を紹介します。
- ④ 参加者数 58名

- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 講師 川上 生馬



ケ 食品に含まれる体に良い成分、良くない成分

- ① 開催日時 平成30年11月3日(土) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 食品中には、生体調節機能を持つ体に良い成分とともに、体に有害な成分も含んでいます。講演では、具体的な食品の例をあげて、健康に良い成分の働きや、食べ過ぎると健康に悪い影響の出る成分について解説します。
- ④ 参加者数 55名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 教授 橋本 博行



コ 合理的配慮とは何か? ー生きやすい社会と仕組みをつくるために

- ① 開催日時 平成30年11月3日(土) 午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 平成28年、障害者差別解消法が施行され、障害のある人に対して「合理的配慮」を行うことが社会に求められるようになりました。それぞれが生きやすい社会を目指すためにはどのような配慮が必要なののでしょうか。一緒に考えましょう。
- ④ 参加者数 56名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 准教授 北村 香織



(2) 地域連携講座

ア 「福祉国家・スウェーデン」と「企業社会・日本」

- ① 開催日時 平成30年9月29日（土）午後1時30分～午後3時30分
- ② 会場 45番教室
- ③ 内容 年末になるとノーベル賞で一躍脚光を浴びるスウェーデンとは、
どういう国なのでしょう。ヨーロッパにありながら200年以上も平和を維持し
続けてきた国スウェーデン。ジェンダー平等でも絶えず世界トップクラスで、
社会保障・福祉の水準も非常に高い。教育費は無料で、しかも奨学金も充実してい
ます。苦勞しながらも難民支援には現在も積極的であり、自然環境の保護政策も
進んでいます。それでいて、経済力・経営力も非常に強い。本講義では、のびの
びとした教育を受け個性を発達させる若者や生き生きと活躍する女性、そして安
心して老後を過ごす高齢者の生活などについて、日本との違いを浮き彫りにしま
す。
- ④ 参加者数 33名
- ⑤ 講師 猿田 正機（中京大学名誉教授）
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 杉山 直



イ 地方都市における持続可能な「コンパクト+ネットワークシティ」の形成に向けて
—多核ネットワーク型都市を形づくる『地域拠点』に着目して—

- ① 開催日時 平成30年10月27日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- ② 会場 45番教室
- ③ 内容 少子高齢化や人口減少化の時代にその必要性が問われ、全国の地方都市が目指している「コンパクトなまちづくり」とは、どのようなものなのでしょうか。本講義では、持続可能なコンパクトシティや多核ネットワーク型都市を形づくる『地域拠点』に着目し、先進自治体の取り組み事例を紹介します。また、地域の中心となる拠点の役割と姿、その実現に向けた様々な計画や事業の方法、プロセスプランニングについて考えていきます。
- ④ 参加者数 44名
- ⑤ 講師 野嶋慎二(福井大学大学院 工学研究科建築建設工学専 教授)、浅野純一郎(豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授)、樋口 秀(長岡技術科学大学大学院 工学研究科 准教授)、松浦健治郎(千葉大学 工学研究院 建築学コース 准教授)、内田奈芳美(埼玉大学 人文社会科学研究科 准教授)
- ⑥ 担当教員 生活科学科 准教授 小野寺 一成



(3) みえアカデミックセミナー2018

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。(※担当者会議資料(三重県生涯学習センター作成)等から)

- ① 開催日時 平成30年8月1日(火) 午後1時30分～午後3時20分
- ② 会場 三重県文化会館 レセプションルーム

- ③ 内 容 講演 演題 高齢者が気を付けたい食生活
- ④ 概 要 高齢者は加齢に伴い、様々な身体的な変化が起きてきます。本講演では、嚥下障害、低栄養、フレイル（虚弱）を中心に高齢者の食に関する問題をお話しし、高齢者が気を付けたい食生活について一緒に考えていきたいと思います。
- ⑤ 参加者数 117名
- ⑥ 担当教員 生活科学科 准教授 阿部 稚里



(4) 出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の平成30年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア 都市計画とまちづくり

- ① 開催日時 平成30年4月23日（月）午後1時30分～午後15時30分
- ② 会 場 亀山市役所
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 小野寺 一成

イ 魚を食べよう！

- ① 開催日時 平成30年6月26日（水）午前9時30分～午前11時30分
- ① 会 場 村主公民館
- ② 参加者数 16名
- ③ 担当教員 生活科学科 教授 山田 徳広

ウ 三重の伝統食文化ー健康づくりのための家庭料理ー

- ① 開催日時 平成30年9月12日（水）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会 場 アストホール4階
- ③ 参加者数 85名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 飯田 津喜美

エ 三重県の食状況について

- ① 開催日時 平成30年10月5日(金) 午後13時～午後14時
- ② 会場 鈴鹿市馬子唄会館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 駒田 亜衣

オ 健康のための運動と食事

- ① 開催日時 平成30年10月5日(金) 午後2時～午後3時
- ② 会場 鈴鹿馬子唄会館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 相川 悠貴

カ 高齢者が気をつけたい食生活

- ① 開催日時 平成30年10月10日(水) 午前9時30分～午前11時30分
- ② 会場 アストホール4階
- ③ 参加者数 80名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 阿部 稚里

キ 公立短期大学という存在

- ① 開催日時 平成30年10月25日(木) 午後12時～午後13時30分
- ② 会場 富士ゼロックス三重㈱
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 学長 生活科学科 教授 東福寺 一郎

ク 働く前に知っておきたい社会保障のこと

- ① 開催日時 平成30年11月6日(火) 午前10時～午前12時
- ② 会場 三重県立朝明高等学校
- ③ 参加者数 24名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝

ケ 男女共存社会のすすめ

- ① 開催日時 平成30年11月9日(金) 午後13時30分～午後15時
- ② 会場 三重県立津西高等学校
- ③ 参加者数 38名
- ④ 担当教員 学長 生活科学科 教授 東福寺 一郎

コ いろいろな食中毒と予防方法

- ① 開催日時 平成30年11月14日(水) 午後7時～午後8時
- ② 会場 北郊デイサービスセンター2階
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 橋本 博行

サ 社会保障の基本

- ① 開催日時 平成30年11月28日(水) 午後1時25分～午後2時45分
- ② 会場 三重県立白子高等学校

- ③ 参加者数 600名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝

シ 健康のための運動と食事

- ① 開催日時 平成30年12月7日(金) 午後1時30分～午後3時
- ② 会場 地域支援センターえがお2階
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 相川 悠貴

ス 社会福祉のしくみ

- ① 開催日時 平成30年12月9日(日) 午後2時～午後3時30分
- ③ 会場 津市安濃町草生1974 寺
- ④ 参加者数 50名
- ⑤ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

セ 社会福祉のしくみ

- ① 開催日時 平成30年12月10日(月) 午後1時～午後3時
- ② 会場 三重県立四日市西高等学校
- ③ 参加者数 15名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 北村 香織

ソ 人を援助する「私」を知る

- ① 開催日時 平成30年12月12日(水) 午後1時～午後2時
- ② 会場 特別支援学校聖母の家学園
- ③ 参加者数 14名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 武田 誠一

タ 人を援助する「私」を知る

- ① 開催日時 平成30年12月26日(水) 午後2時～午後3時30分
- ② 会場 津地区医師会館
- ③ 参加者数 35名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 武田 誠一

チ 外国人との共生について

- ① 開催日時 平成31年1月23日(水) 午後5時30分～午後7時
- ② 会場 飯野高等学校(定時制)
- ③ 参加者数 59名
- ④ 担当教員 法経科 教授 楠本 孝

ツ 心理学ミニ実験

- ① 開催日時 平成31年2月19日(水) 午前10時30分～午前12時
- ② 会場 KTC おおぞら高等学院四日市キャンパス
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 学長 生活科学科 教授 東福寺一郎

テ 10代から学ぶパーソナルファイナンス ーライフプランを考えようー

- ① 開催日時 平成31年2月20日(木) 午前10時30分～午前12時
- ② 会場 KTC おおぞら高等学院四日市キャンパス
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 法経科 講師 鷲尾 和紀

ト メタボ健診受診のすすめと津市の健康課題

- ① 開催日時 平成31年2月24日(日) 午前10時30分～午前11時30分
- ② 会場 津市ふれあい会館
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 駒田 亜衣

ナ 健康づくりについて

- ① 開催日時 平成31年3月3日(日) 午後2時30分～午後3時30分
- ② 会場 津市安濃町草生1974 寺
- ③ 参加者数 50名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 飯田津喜美

ニ 地域福祉について

- ① 開催日時 平成31年3月10日(日) 午後2時～午後3時
- ② 会場 津市安濃町田端上野551 寺
- ③ 参加者数 50名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 長友 薫輝

ヌ 健康のための運動と食事

- ① 開催日時 平成31年3月12日(火) 午後1時30分～午後2時30分
- ② 会場 三重県総合文化センター視聴覚室
- ③ 参加者数 100名
- ④ 担当教員 生活科学科 助教 相川 悠貴

ネ 魚を食べよう!

- ① 開催日時 平成31年3月27日(水) 午後7時20分～午後8時30分
- ② 会場 三重県建設労働組合亀山支部会館
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 生活科学科 教授 山田 徳広

(5) プログラミング講座

平成30年度より、小学校4年生から中学校2年生までを対象に、Scratchを用いた初心者向けプログラミング講座を開設した。

- ① 開催日時 平成31年1月27日(日) 午後1時00分～午後3時30分
- ② 会場 情報処理演習室
- ③ 参加者数 7名

④ 担当教員 生活科学科 准教授 笠 浩一郎



(6) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	「地域共生社会」について考える	7月7日(土)	41番教室	46
	頭と体を良くする運動と栄養	7月7日(土)	41番教室	60
	骨の健康を守るために	8月4日(土)	45番教室	56
	妊娠期に気を付けたい食生活	8月4日(土)	45番教室	30
	音楽を通してみるドイツ語の詩 ーゲーテの『魔王』を中心に	9月1日(土)	41番教室	47
	地方議会のいま	9月1日(土)	41番教室	46
	日本経済はなぜ「停滞」したのか	10月6日(土)	41番教室	54
	相続の仕組みについて	10月6日(土)	41番教室	58
	食品中に含まれる体に良い成分、 良くない成分	11月3日(土)	41番教室	55
	合理的配慮とは何か? 一生き やすい社会と仕組みをつくるた めに	11月3日(土)	41番教室	56

地域連携講座	「福祉国家・スウェーデン」と「企業社会・日本」	9月29日(土)	45番教室	33
	地方都市における持続可能な「コンパクト+ネットワークシティ」の形成に向けて ー多核ネットワーク型都市を形作る『地域拠点』に着目してー	10月27日(土)	45番教室	44
みえアカデミックセミナー	高齢者が気を付けたい食生活	8月1日(木)	三重県文化会館レセプションルーム	117
出前講座 (高大連携事業を除く)	都市計画とまちづくり	4月23日(月)	亀山市役所	20
	魚を食べよう!	6月26日(火)	村主公民館	16
	三重の伝統食文化ー健康づくりのための家庭料理ー	9月12日(水)	アストホール4階	85
	三重県の食状況について	10月5日(金)	鈴鹿馬子国会館	30
	健康のための運動と食事	10月5日(金)	鈴鹿馬子国会館	30
	高齢者が気を付けたい食生活	10月10日(水)	アストホール4階	80
	公立短期大学という存在	10月25日(木)	富士ゼロックス三重(株)	30
	働く前に知っておきたい社会保障のこと	11月6日(火)	三重県立朝明高等学校	24
	男女共存社会のすすめ	11月9日(金)	三重県立津西高等学校	38
	いろいろな食中毒と予防方法	11月14日(水)	北郊デイサービスセンター2階	20
	社会保障の基本	11月28日(水)	三重県立白子高等学校	600
	健康のための運動と食事	12月7日(金)	地域支援センターえがお2階	30
	社会福祉のしくみ	12月9日(日)	津市安濃町草生 1974 寺	50
	社会福祉のしくみ	12月10日(月)	三重県立四日市西高等学校	15

	人を援助する「私」を知る	12月12日(水)	特別支援学校聖母の家 学園	14
	人を援助する「私」を知る	12月26日(水)	津地区医師会館	35
	外国人との共生について	1月23日(水)	飯野高等学校(定時制)	59
	心理学ミニ実験	2月19日(水)	KTC おおぞら高等学院四 日市キャンパス	20
	10代から学ぶパーソナルファイ ナンス ライフプランを考 えようー	2月20日(木)	KTC おおぞら高等学院四 日市キャンパス	20
	メタボ健診受診のすすめと津市 の健康課題	2月24日(日)	津市ふれあい会館	30
	健康づくりについて	3月3日(日)	津市安濃町草生1974 寺	50
	地域福祉について	3月10日(日)	津市安濃町田端上野551 寺	50
	健康のための運動と食事	3月12日(火)	三重県総合文化センター 一視聴覚室	100
	魚を食べよう!	3月27日(水)	三重県建設労働組合亀 山支部会館	20
出前講座 (高大連携 事業)	紅茶の甘さあて。ミネラルウォーターの嗜好調査	9月6日(木)	相可高等学校	77
	製菓実習	12月5日(水)	三重短期大学	57
	経済学とは何か	2月20日(木)	久居高等学校	20
プログラミング 講座	小中学生向けプログラミング講座 in 三重短	1月27日(日)	情報処理演習室	7

(7) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成8年度より実施している。

満18歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と1単位当たりの費用が必要となる。

平成30年度の科目等履修生は、前後期あわせて15名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語Ⅰや独語Ⅰなどの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く25科目が選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする一方、現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

(前期)

科 目	単 位	人 数
民法Ⅲ	2	2
家族法	4	1
刑法	4	1
金融論	4	1
行政法	4	1
地域史	2	1

(後期)

科 目	単 位	人 数
労働法	4	1
マーケティング論	4	1
給食計画実務論	2	1
食品衛生学実験	1	1
食品衛生学Ⅱ	2	1
栄養学実験	1	1
調理学実習Ⅱ	1	1
解剖生理学実験	1	1
調理学実習Ⅲ	1	1
管理栄養特殊講義	2	1
財政学	4	1
税法	2	1
哲学	2	1
日本経済論	2	1
日本国憲法Ⅱ	2	1

(通年)

科 目	単 位	人 数
英語Ⅰ	2	1
英会話	2	1
独語Ⅰ	2	2
中国語Ⅰ	2	1

2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、連携協定を締結している、三重県立亀山高等学校、相可高等学校、津商業高等学校、久居高等学校及びみえ夢学園高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

また、高等学校を対象とした連携以外にも、本学附属図書館による市内の中学校への図書指導事業を通じた連携にも取組んでいる。

(1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。

ア 相可高等学校との出前講座（会場：相可高等学校）

- ① 日 時 平成30年9月6日（木）午前10時40分～午前12時30分
午後1時40分～午後3時30分
- ② 講 師 生活科学科 教授 橋本博行
- ③ 内 容 紅茶の甘さあて。ミネラルウォーターの嗜好調査
- ④ 対 象 相可高等学校1・2年生77名

イ 相可高等学校との出前講座（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 平成30年12月5日（水）午前10時00分～午後1時
- ② 講 師 相可高校 食物調理科 野呂朱美教諭
- ③ 内 容 クリスマス用ロールケーキの作り方
- ④ 対 象 三重短期大学生生活科学科食物栄養学専攻1年生57名



ウ 久居高等学校への出前講座

- ① 日 時 平成31年2月20日（木）午後1時30分～午後3時
- ② 講 師 生活科学科 准教授 田添 篤史
- ③ 内 容 経済学とは何か
- ④ 対 象 同校2年生20名

(2) 一身田中学校図書館ボランティア活動

附属図書館は、平成17年10月から、一身田中学校の要請もあって、附属図書館司書と図書館ボランティアの有志学生により、書架整理、館内ディスプレイ、本の装備、等の図書館支援を行っている。平成29年度からは、一身田中学校のお昼休みの時間に本学学生主催のワークショップ「みえたん・ラボ」を開催している。

(活動回数) 合計15回 参加学生数のべ52名

「みえたん・ラボ」開催回数 7回 一身田中学校生徒参加者数 73名



(3) 市内学校への図書指導事業

市内小中学校図書館充実のための教育研究支援課主催の市内学校図書館関係者向け「図書館ステップアップ講座」「図書館サポート講座」へ司書を派遣している。

(図書館ステップアップ講座)

テーマ「つながるおはなし～絵と言葉をつなげてあそぼう～」

(図書館サポート講座)

テーマ「わたしがおすすめ！～おすすめ方法は∞～」



3 産学連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研（現・株式会社三十三総研）は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文・作品コンクールを引き続き開催したほか、三十三総研より講師を招いた「企業論」の開講等の連携事業を実施した。

また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

(1) 株式会社三重銀行及び株式会社三十三総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア 三重短期大学・三十三総研主催小論文・作品コンクール

株式会社三重銀行、株式会社三十三総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文・作品コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三十三総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施した。

② テーマ

『共生社会』

③ 応募資格

三重短期大学在学学生（科目等履修生を含む）。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

⑤ 募集期間

平成30年7月2日～平成30年10月9日

⑥ 選考委員

委員長	三重短期大学	学長	東福寺 一郎
委員	三重短期大学	法経科准教授	杉山 直
委員	三重短期大学	生活科学科教授	山田 徳広

⑦ 応募作品（タイトル名）

- ・ 共生社会構築に向けた情報との向き合い方 ～食品問題の現状から考える～
- ・ 母子世帯の貧困 ～多様な家族を認めるための支援とは～
- ・ 働く貧困層と最低賃金機能回復 ～貧困に陥らないために低賃金労働からの脱却を目指す～
- ・ 保育所利用待機児童問題の課題
- ・ 教育格差をなくす ～平等な教育機会を実現するために海外の政策から考える～

- ・子どものいる働くすべての女性の働きやすい環境とは
～父親の育児参加の機会を増やすことを求めて～
- ・教員の労働現状 ～働きやすい社会にするための1つの事例として～
- ・大学授業料無償化による教育機会均等 ～学習時間の確保を目指して～
- ・お金のかかりすぎる国日本 ～教育費を家族だけに任せない～
- ・子どもの貧困の再生産をとめるには
- ・児童労働から考える共生社会
- ・少子化問題について
- ・キャッシュレス化社会に向けての日本の課題
- ・職場におけるLGBT
- ・高齢化問題と地方創生
- ・外国人技能実習制度から考える三重県民と外国人の共生
- ・「買い物難民」について
- ・子どもの貧困について
- ・「共生社会」子供の貧困について
- ・ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ・外国人労働者について
- ・LGBTの人が自分らしく生きられる三重であるために
- ・現代社会における子どもの貧困の諸問題
- ・「高齢化が進む町と大学生の共生」
- ・職場の人権問題
- ・AIとの共生社会
- ・「自助努力学生」
- ・外国と日本の労働状況・環境の違いについて ～長時間労働に着目して～
- ・「現在のキャリア権について一雇用が保障されない社会に対する批判的検討一」
- ・日本の長時間労働問題 ～ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて～
- ・「高齢者福祉施設の食の共生」
- ・障害者と性一日本の現状分析と海外の制度紹介一
- ・母子家庭の現状と問題について
- ・「障害者の雇用について：～精神障害者の雇用～」
- ・大量廃棄社会を考える
- ・共生社会とドメスティック・バイオレンス
- ・コミュニティ防災の構築～持続可能な地域共生社会の形成～
- ・外国人の働き方と共生について考える
- ・木質バイオマス発電は夢の発電方法になりうるか
- ・みたらし風味の豆乳プリン
- ・「津ぶっこ」食材のきんぴら
- ・下津醤油の和プリン

- ・具沢山うまき（共同制作）
- ・日本式グルテンフリー 「グルテンフリー明太チーズコロッケ」

（全 44 作品）

⑧ 選考結果

【最優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
和手 甚幸	現代社会における子どもの貧困の諸問題	法経科第 2 部	小論文

【学長賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
井上 麻衣	「高齢化が進む町と大学生の共生」	法経科第 2 部	小論文

【優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
松村 咲歩	共生社会とドメスティック・バイオレンス	法経科第 2 部	小論文
峰 英美	コミュニティ防災の構築 ～持続可能な地域共生社会の形成～	法経科第 2 部	小論文
鈴木 沙弥子	下津醤油の和プリン	生活科学科 食物栄養学専攻	レシピ

【佳作】

氏名	タイトル名	学科	部門
太田 真由	キャッシュレス化社会に向けての日本の課題	法経科第 1 部 経商コース	小論文
高橋 結衣	「買い物難民」について	法経科第 1 部 経商コース	小論文
平尾 厚子	大量廃棄社会を考える	法経科第 2 部	小論文
東浦 菜々子	日本式グルテンフリー 「グルテンフリー明太チーズコロッケ」	生活科学科 食物栄養学専攻	レシピ

⑨ 表彰式 ※本学「大学祭」と同時開催

日時 平成 30 年 11 月 17 日（土）午後 3 時～午後 4 時

場所 三重短期大学 大学ホール 2 階 小教室 A B

表彰者 三重短期大学学長 東福寺 一郎

株式会社 三十三総研調査部長 別府 孝文

司 会 三重短期大学法経科 教授 石原 洋介



(表彰式)

イ 三十三総研より講師を招いた講義

① 講義科目 企業論

(専修第二(経済・経営)分野 前期 火曜日9-10限目 受講者数58名)

② 講師 山川 敏

(株式会社三十三総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント)

③ 講義のねらい

㈱三十三総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1)起業の意義と外部環境把握
- ・ 同 (2)外部環境把握
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究
- ・ 起業家の成功要因を考える：3つの側面からの考察
- ・ 自分研究：自分の特長、やってみたいこと
- ・ 経営理念の立て方：基本理念と行動理念
- ・ マーケティングと経営戦略 (1)意義
- ・ 同 (2)勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り
- ・ ビジネスプランの作成 等

(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科石原洋介教授（地域連携センター長）の内容

石原 洋介（いしはら ようすけ）

職名	法経科 教授
授業科目	金融論、国際経済論
キーワード	グローバル化、国際金融、国際経済、フェアトレード、TPP と食の安全
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化における国際金融システムの不安定化に関する研究 ・中国におけるバブル形成と中国金融システムの問題点 ・フェアトレードによる貧困削減 ・TPP による国民生活への影響
研究テーマの応用例	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と経済格差、それを解決する手段としてのフェアトレード ・FTA、TPP 締結と日本経済の今後 ・東アジアにおける経済連携の構築
最近の研究業績	<p>[論説]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「TPP が脅かす食の安全」三重法経、第 149 号、2017 年 ・「TPP に対する危惧～SPS の観点から～」 三重法経 第 143 号、2014 年 ・「サブプライム危機が示した新自由主義金融の限界」 三重法経 第 141 号、2012 年 ・「チェンマイ・イニシアティブのマルチ化について」 三重法経 第 139 号、2011 年 ・「グローバル金融危機の中の東アジア経済」 唯物論と現代44 2010 年 ・「東アジアにおける金融安定化への課題」 地研年報第 13 号 2008 年 <p>[共著]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫻谷勝美・野崎哲哉編『新自由主義改革と日本経済』三重大学出版会、2008 年 第 10 章
最近の社会的活動	<p>[講演]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久居高校出前講座「フェアトレードの挑戦～チョコレートで世界を変える物語～2016 年 2 月 17 日(津市久居高校にて) ・津市教育委員会生涯学習講座「伊勢志摩サミット目前、あらためてサミットとは何か？」2016 年 2 月 27 日(津市、センターパレスにて) ・津市教育委員会生涯学習講座「世界が注目する伊勢志摩サミット、その論点とは何か？」2016 年 3 月 5 日(津市、センターパレスにて)
メッセージ	<p>経済学とは人々を幸せにできる経済の仕組みを追求する学問だと思います。今日、世界的な格差拡大をもたらした新自由主義経済に対抗する経済学の構築は急務であり、自分のテーマとしています。</p>

4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

(1) 政策研究・研修

① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたりとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

② 研修テーマ、指導教員及び研修生

テーマ 「糖尿病性腎症の重症化予防のための指導ツールの作成」

指導教員 生活科学科 准教授 駒田亜衣

研修生

NO	氏名	所属
1	獅子原 名都子	名張市市民部 保険年金室
2	木下 なつこ	津市健康福祉部 保険医療助成課
3	舘 美香	津市健康福祉部 保険医療助成課

③ 研修期間

平成30年7月4日から平成31年2月18日まで

④ 主な研修内容（「研修計画」参照）

テーマ毎に分かれた研修生グループが、指導教員による指導の下、先進地視察やデータ解析等を行い、具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤ 研究・研修計画

研究・研修計画

<p>〔テーマ〕 糖尿病性腎症の重症化予防のための指導ツールの作成</p> <p style="text-align: right;">担当教員 生活科学科准教授 駒田亜衣</p>	
<p>テーマ解説</p>	<p>津市国民健康保険において、人工透析が必要な慢性腎不全の医療費は高額であり、その患者数は増加傾向で、特に糖尿病性腎症による人工透析は増加している。そのような中、三重県において、糖尿病性腎症重症化予防を推進するため、三重県糖尿対策推進会議が中心となり平成 29 年 12 月に「三重県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」が作成され、「糖尿病性腎症重症化予防に係る三重県連携協定」が締結された。</p> <p>津市では生活習慣の改善により重症化予防が期待できる糖尿病性腎症患者に対して、行政(保険者)と医療機関が連携して保健指導による介入を行い、重症化を予防し医療費の適正化を図ることを目的に、糖尿病性腎症重症化予防事業を平成 28 年度より外部委託にて実施してきた。今後は、津市第 2 期国民健康保険保健事業実施計画に基づき、市で直接実施する予定である。</p> <p>そこで本研究・研修では、各市町村で使用できる糖尿病性腎症の重症化予防のための指導ツールの作成を目的とする。</p> <p>なお、本政策研究・研修の実施にあたり、三重短期大学非常勤講師石橋智奈美准教授を共同研究分担者とする。石橋准教授の担当科目は「臨床栄養学」「臨床栄養学実習」であり、本研究をすすめるうえで助言等いただく。</p> <p>また、本学の学生で病院や保健センターへの就職希望者、臨床栄養に興味のある学生らの参加も予定している。</p>
<p>研究計画等</p>	<p>2018 年 6～12 月 指導ツールの作成(2 か月に 1 回程度の研修)</p> <p>2019 年 1～2 月 冊子の印刷・完成、研究のまとめと報告</p>
<p>備考</p>	

⑥ 成果報告会

- ・日 時 平成31年2月18日(月) 午前10時30分～午前11時30分
- ・場 所 三重短期大学 管理棟2階 演習室1
- ・内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答
- ・主な参加者

名張市福祉子ども部理事、名張市保険年金室室長、津市健康福祉部健康医療担当理事、津市健康福祉部保健医療助成担当参事(兼)保健医療助成課長、学長、地域連携センター長、事務局長、事務局次長ほか



(成果報告会の様子)



(研修生)

(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、平成30年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 前期 水曜日9-10限)
- ② 担当教員 法経科 准教授 小野寺 一成
- ③ 受講者数 78名

回	実施日	講義科目(キーワード)等	講師等
1	4月11日(水)	オリエンテーション	生活科学科 准教授 小野寺 一成
2	4月18日(水)	津市総合計画について	政策財務部 【政策課調整・政策担当主幹 大垣内 俊行】
3	4月25日(水)	平成30年度 スポーツ振興施策の概要	スポーツ文化振興部 【スポーツ文化振興部次長 小宮 伸介】
4	5月 9日(水)	これからの子どもたちに 求められる力	教育委員会事務局 【学校教育・人権教育担当理事 田中 寛】
5	5月16日(水)	ビジネスサポートセンターについて 津市の商業振興と労働行政	商工観光部 【企業誘致課長 伊藤 伸一】 【商業振興労政課 調整・企画管理・労政担当主幹 大西 寛章】
6	5月23日(水)	津市の産業振興	農林水産部 【農林水産政策課農業振興担当主幹(兼) 獣害対策担当主幹 福田 省吾】
7	5月30日(水)	津市の都市計画 津市の公共交通について	都市計画部 【都市計画部都市政策担当参事(兼) 都市政策課長 別府 敏】 【交通政策課長 垣野 哲也】
8	6月 6日(水)	選挙について 中間まとめ	選挙管理委員会 【選挙管理委員会事務局次長(兼) 調整・選挙担当主幹 前田裕久】 生活科学科 准教授 小野寺 一成
9	6月11日(月)- 6月14日(木)	議会見学	

10	6月20日(水)	津市の財政状況を知る	政策財務部 【財政課調整・担当主幹 野田 遊喜】
11	6月27日(水)	地球温暖化対策について 資源循環型社会を目指して	環境部 【環境共生担当主幹 萩原 慎也】 【資源循環推進担当主幹吉田 和司】
12	7月 4日(水)	津市の健康づくりについて	健康福祉部 【健康医療担当参事(兼)健康づくり 課長 栗本 真弓】
13	7月11日(水)	対話と連携のまちづくり	市民部 【地域連携課長 川原田 吉光】
14	7月18日(水)	政策の生まれ方から語る自治体経営	市長 前葉 泰幸
15	7月25日(水)	最終まとめ	生活科学科 准教授 小野寺 一成



(前葉市長による講義)

(3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏名	委嘱先	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	杉山 直	同朋大学	「経営学」非常勤講師	平成30年4月1日～ 平成30年9月17日
2	武田 誠一	学校法人 新潟福祉医療学園 日本こども福祉専門学校	「保健医療サービス」非常勤講師	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日
3	川上 生馬	日本福祉大学経済学部	「民法」非常勤講師	平成30年9月10日～ 平成31年2月28日
4	川崎 航史郎	日本福祉大学 社会福祉学部	「社会福祉関係法」(集中講義)非常勤講師	平成30年4月1日～ 平成31年2月28日
5	川上 生馬	中央大学法学部 通信教育課程 学生会大阪支部	「民法総則」講師	平成30年6月9日
6	北村 香織	四日市市 財政経営部 行財政改革課	四日市市指定管理者選定委員会委員	平成30年4月27日～ 平成31年3月31日
7	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県発達障害者支援地域協議会委員	平成30年6月1日～ 令和元年11月30日
8	石原 洋介	三重県農林水産部	三重県地方卸売市場運営協議会委員	平成30年7月1日～ 令和2年6月30日
9	藤枝 律子	亀山市総務部	亀山市行政不服審査会委員	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日
10	駒田 亜衣	三重県津保健所	津地域栄養管理ネットワーク研究会委員	平成30年5月9日～ 平成31年3月31日
11	駒田 亜衣	津市食生活改善 推進協議会	「津市食生活改善推進員リーダー支援研修会」講師	平成30年9月7日

12	川崎 航史郎	津家庭裁判所	津家庭裁判所委員会委員	平成 30 年 5 月 1 日～ 令和 2 年 4 月 30 日
13	東福寺 一郎	三重県環境生活部	新しいみえの文化振興方針 評価・推進会議委員	平成 30 年 6 月 29 日～ 平成 31 年 7 月 8 日
14	駒田 亜衣	津市健康福祉部 保険医療助成課	「津市特定保健指導研修 会・説明会」講師	平成 30 年 8 月 1 日
15	木下 誠一	鳥羽市建設課 まちづくり整備室	鳥羽市都市計画審議会委員	平成 30 年 7 月 1 日～ 令和 2 年 6 月 30 日
16	藤枝 律子	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適 正化委員会委員	平成 30 年 6 月 26 日～ 令和 2 年 6 月 25 日
17	長友 薫輝	三重県子ども・福祉部	三重県障害者介護給付費等 及び障害児通所給付費等不服 審査会委員	辞令交付日から 3 年間
18	小野寺 一成	津市農林水産部	津市農業振興対策協議会委 員	委嘱日より 2 年間
19	阿部 稚里	三重県教育委員会 保健体育課	「つながる食育推進事業」 推進委員会委員	平成 30 年 6 月 5 日～ 平成 31 年 2 月 28 日
20	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協 議会委員	平成 30 年 8 月 20 日～ 令和 2 年 8 月 19 日
21	藤枝 律子	桑名市市長公室 人事課	桑名市職員研修「行政法研 修」講師	平成 30 年 9 月 12 日、19 日
22	長友 薫輝	松阪市松阪市民病院	「地域医療構想をふまえた 松阪市民病院の在り方検討委 員会」委員	委員就任日～ 平成 31 年 3 月 31 日
23	駒田 亜衣	三重県尾鷲保健所	「給食施設従事者研修会」 講師	平成 30 年 8 月 27 日
24	東福寺 一郎	放送大学学園	「心理学実験 2」非常勤講 師	平成 30 年 10 月 27 日、 28 日
25	飯田 津喜美	放送大学学園	「健康づくりのための食の 視点」非常勤講師	平成 31 年 1 月 12 日、13 日
26	木下 誠一	三重県医療保健部	「老人保健福祉施設整備事 業事前審査会」委員	平成 30 年 9 月 1 日～ 令和元年 8 月 31 日
27	木下 誠一	三重県県土整備部	「三重県開発審査会」委員	平成 30 年 9 月 14 日～ 令和 2 年 9 月 13 日

28	東福寺 一郎	三重県 生涯学習センター	三重県生涯学習センター運 営協議会委員	委嘱日～ 令和2年3月31日
29	飯田 津喜美	(公財) 三重県体育協会	(公財) 三重県体育協会 スポーツ医・科学実行委員会委 員	平成30年6月18日～ 2年以内
30	飯田 津喜美	三重県水産物消費拡大 促進協議会	三重県おさかな料理コン クール審査員	平成30年9月24日
31	東福寺 一郎	三重県立図書館	三重県立図書館協議会委員	平成30年9月3日～ 令和2年9月2日
32	小野寺 一成	三重県県土整備部	三重県事業認定審議会委員	平成30年9月19日～ 令和2年9月18日
33	楠本 孝	津市青少年センター	津市青少年問題協議会委員	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日
34	武田 誠一	津市健康福祉部介護保険 課	津市介護保険事業等検討委 員会委員	平成30年10月1日～ 令和3年9月30日
35	楠本 孝	津市市民部人権課	津市人権施策審議会委員	委嘱日～ 令和3年1月9日
36	武田 誠一	公益財団法人 放送番組センター	公開セミナー登壇(報告者)	平成30年11月17日
37	東福寺 一郎	社会福祉法人 三重県共同募金会	三重県共同募金会配分委員 会委員	平成30年6月25日～ 令和2年6月24日
38	飯田 津喜美	国立大学法人 三重大学	「調理実習Ⅱ」非常勤講師	平成30年10月20日～ 平成31年3月31日
39	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ対策会議委員	平成30年11月10日～ 2年間
40	小野寺 一成	津市建設部	津市中勢グリーンパーク 官民連携事業導入支援業務 プロポーザル方式審査委員 会委員	平成30年8月29日～ 平成30年10月15日
41	小野寺 一成	四日市市 都市整備部	四日市市開発審査会委員	平成30年11月1日～ 令和2年10月31日
42	武田 誠一	四日市市健康福祉部	四日市市障害者差別解消 支援地域協議会委員	委嘱日～ 令和2年10月31日
43	飯田 津喜美	三重県工業研究所	みえ産学官技術連携研究会 講師	平成30年12月12日

44	藤枝 律子	三重県環境生活部	三重県私立学校審議会委員	平成31年2月1日～ 令和5年1月31日
45	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市情報公開・個人情報 保護審査会委員	平成30年12月6日～ 令和2年12月5日
46	藤枝 律子	桑名市総務課	桑名市行政不服審査会委員	平成30年12月6日～ 令和2年12月5日
47	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会審査部会 員	平成31年1月1日～ 令和2年12月31日
48	藤枝 律子	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会委員	平成31年1月1日～ 令和2年12月31日
49	長友 薫輝	桑名市社会福祉事務所	桑名市地域自立支援協議会 委員	平成31年2月～ (2年)
50	武田 誠一	社会福祉法人あゆみ	社会福祉法人あゆみ理事	平成31年1月1日～ 令和2年6月30日
51	山田 徳広	株式会社 少年写真新聞社	原稿執筆・監修	平成31年1月7日～ 平成31年1月21日
52	川崎 航史郎	三重労働局	若年者地域連携事業に関 する技術審査委員会委員	平成31年2月1日～ 平成31年3月31日
53	川崎 航史郎	三重労働局	平成31年度訓練受講希 望者等に対するジョブ・カ ード作成支援推進事業に関 する技術審査委員会委員	平成31年2月26日～ 平成31年3月31日
54	川崎 航史郎	三重労働局	平成31年度地域若者サ ポートステーション事業に 係る提案書技術審査委員会 委員	平成31年3月1日～ 平成31年3月31日
55	木下 誠一	一般社団法人 三重県建設業協会	三重県建築賞応募作品の審 査	平成31年2月20日～ 平成31年3月31日
56	藤枝 律子	三重県環境生活部	三重県男女共同参画審議会 委員	平成31年3月16日～ (2年間)
57	藤枝 律子	四日市市総務部	四日市市情報公開・個人情 報保護審査会委員	平成30年4月1日～ 令和3年3月31日
58	長友 薫輝	津市健康福祉部	津市健康づくり推進懇話 会委員	委嘱日から2年間

59	東福寺 一郎	津市健康福祉部	津市地域自立支援協議会 委員	委嘱日～ 平成 30 年 4 月 30 日
60	藤枝 律子	三重県戦略企画部	三重県個人情報保護審査 会委員	平成 28 年 6 月 25 日～ 平成 30 年 6 月 24 日
61	藤枝 律子	三重県地域連携部	本人確認情報の保護に関 する審議会委員	平成 28 年 6 月 25 日～ 平成 30 年 6 月 24 日
62	村井 美代子	三重県戦略企画部	三重県情報公開審査会委 員	平成 28 年 6 月 1 日～ 平成 30 年 5 月 31 日
63	石原 洋介	三重県農林水産部	三重県地方卸売市場運 営協議会委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
64	東福寺 一郎	三重県教育委員会	三重県社会教育委員	平成 28 年 6 月 1 日～ 平成 30 年 5 月 31 日
65	村井 美代子	津市教育委員会	津市図書館協議会委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
66	木下 誠一	鳥羽市建設課	鳥羽市都市計画審議会委 員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
67	小野寺 一成	津市農林水産部	津市農業振興対策協議会 委員	平成 28 年 7 月 1 日～ 平成 30 年 6 月 30 日
68	藤枝 律子	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡 協議会委員	平成 28 年 8 月 20 日～ 平成 30 年 8 月 19 日
69	武田 誠一	津市介護保険課	津市介護保険事業等検討 委員会委員	平成 28 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 9 月 30 日

5 地域の大学との連携

三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生が参加したり、教育学部家政教育コースと本学食物栄養学専攻の学生が中心市街地の店舗を利用した連携事業などを実施したりした。

(1) 三重大学生物資源学部との連携 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行った。参加した学生は宿泊所に泊まり、三重大学の学生とも交流を深めた。

ア 農場コース【土は生きている】

- ① 月 日 平成30年8月22日（水）～24日（金）
- ② 内 容 三重大学生物資源学研究科との連携事業（開放授業）として同大学FSC 附帯施設農場等において、「土は生きている」をテーマに、地域特産農産物などに関する知識の習得やイネの収穫、伊勢茶の加工、うどん作りなどを行った。

イ 演習林コース【森は生きている】

- ① 月 日 平成30年9月18日（月）～20日（水）
- ② 内 容 三重大学生物資源学部研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林において、「森は生きている」をテーマに、天然生林・二次林などに関する知識の習得や人工林の土砂災害調査、森林環境調査などを行った。

(2) 三重大学家政教育コースとの連携 三重短期大学と三重大学の連携による「津市センターパレスホール」を利用した学生カフェ『Café HONO BUONO』（カフェ ほのぼ～の）

- ① 月 日 平成30年12月16日（日）
- ② 会 場 津センターパレスビル5階「津市センターパレスホール」
- ③ 内 容 三重大学との大学間連携の一環として、三重大学教育学部と連携して、「津市センターパレスホール」で1日限定の学生による『Café HONO BUONO』を出店した。

三重短期大学生活科学科食物栄養学専攻の学生10名と、三重大学教育学部家政教育コース（吉本敏子教授）の学生13名が協議を進め、本年度9回目の出店となった。

地域のコミュニティとなるカフェの出店を通じ、三重大学教育学部家政教育コースでは、企画・広報や消費者の立場、商店街の役割など消費生活に関する実習、三重短期大学食物栄養学専攻ではランチセット、デザートセットなどのクリスマスに合わせた食べ物を提供する実習を行った。



(接客の様子)



(調理の様子)



(津市長が来店)



(ランチセット)



(デザートセット)

6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に56名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は40名であった。

(1) 地域連携サポーター制度

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており、登録学生数は56名であった。

ア 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第1回）

- ① 日 時 平成30年5月26日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 20名



イ 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第2回）

- ① 日 時 平成30年10月20日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 20名



（一身田寺内町・環濠・本山境内清掃）

津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生20名が新たに任命され、津市夏期訓練などの訓練や津市消防本部が主催する防災啓発イベントに参加した。



(夏期訓練：隊列)



(学内：救急救命講習)

(2) 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員のほか地元自治会及び老人会合わせて約310名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

学内では、三重県防災危機管理部防災企画・地域支援課から派遣された防災啓発車による地震体験や煙体験ハウスによる地震や火災の体験を行った。

また、津市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演を行った。

- ① 日 時 平成30年4月26日(木) 午前10時～午後1時
- ② 場 所 三重短期大学及び三重県総合文化センター(祝祭広場)



(救急救命の実演)



(徒歩による避難訓練)

(4) 513 BAKERYとの連携

- ① 期 間 平成31年2月1日～平成31年2月28日
- ② 内 容 今年度も、学生の貴重な社会勉強の場を体験し、津市産の食材を使うなど地域に貢献することを目的として、513 BAKERYの協力を得て商品開発を進め、同社とのコラボにより開発した商品（三重短パン）が同店全10店舗で2月1日から一斉に発売された。
- ③ 津市産の食材 津市特産品のほうじ茶・津市名産の下津醤油
- ④ 参加者数 食物栄養学専攻 14名



(写真上：ほうじ茶ラテデニッシュ)

(写真下：下津醤油の肉詰めパン)



(ポスター)



(市長表敬訪問)

(5) 「コンセプト部屋」デザインの提案・発表

- ① 期 間 平成30年5月17日(木)～平成30年11月8日(木)
- ② 内 容 今年度は、生活科学科居住環境コースの学生が㈱賃貸メイトと連携し、地域の活性化に向けた民営借家の空室解消を目指して、学生独自の感性や視点から「コンセプト部屋」のデザインを提案して発表した。
- ③ 参加者数 居住環境コース 13名
- ④ 表 彰 提案作品8作品から、最優秀賞1件・優秀賞2件表彰

【最優秀賞】

- ・テーマ『カフェスタイル』…カフェの雰囲気です映えするデザイン

【優秀賞】

- ・テーマ『緑の賃貸』…緑をモチーフにした緑のある空間のデザイン
- ・テーマ『ヴィンテージ』…押し入れを見せる収納にしたヴィンテージデザイン



(発表の様子)



(参加者集合写真)

(6) 美化デー

- ①日 時 平成30年11月15日(木) 午後1時～午後2時
- ②内 容 市が実施する市民清掃デーにならい、三重短期大学「美化デー」として、時期を秋に変更して、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。
- ③参 加 数 学生・教職員30名

Ⅱ 資料

1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

(1) 図書館

ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、1月と7月は、利用不可
利用資格	18歳以上の津市在住・在勤・在学者

イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	閲覧者数
平成29年4月	7	0
5月	2	1
6月	1	1
7月	0	0
8月	2	0
9月	2	5
10月	1	3
11月	2	1
12月	2	0
平成30年1月	2	0
2月	0	0
3月	0	1
合計	21	12

(2) 体育施設（体育館、テニスコート、グラウンド）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9:00~21:00		
使用料 (別途、夜間 照明料要)	体育館	9:00~18:00	1時間につき 500 円
		18:00~21:00	1時間につき 750 円
	テニスコ ート	9:00~18:00	1時間につき 100 円(一面につき)
		18:00~21:00	1時間につき 100 円(一面につき)
	グラウンド	9:00~18:00	1時間につき 1,000 円
		18:00~21:00	1時間につき 1,000 円
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者 10 人以上で構成され た団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出 し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数		
		体育館	テニスコート	グラウンド
平成 30 年 4 月	5	3	0	1
5 月	1	5	0	4
6 月	0	8	0	2
7 月	0	4	0	2
8 月	0	4	0	1
9 月	1	5	0	2
10 月	2	2	0	1
11 月	1	5	0	0
12 月	0	4	0	0
平成 31 年 1 月	0	5	0	3
2 月	0	4	0	2
3 月	0	6	0	2
合 計	10	55	0	20

2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

平成 30 年度は、次のような研究が行われた。

【 2018 年度 研究員 申請一覧 】

研究員名	研究テーマ	研究概要
杉山 直	トヨタの労使関係	トヨタは 2017 年 5 月に「働き方・働く意識の変革に向けた専門委員会」を労使間に設け、事務技術職、技能職及び業務職を対象にした「働き方」に関する改革に向けた議論を始めた。そして、2017 年 12 月から脱労働時間を意識した裁量労働制である FTL (I) を導入した。これ以降も、議論が続けられている。本研究では、これに関わりトヨタの事務技術職の労働時間制の歴史的展開を整理し、トヨタの労働時間制及び労使関係の特徴をあきらかにする。トヨタの FTL (I) は、関連企業にも影響を与えるが、三重県下の関連企業の動向も明らかにしたい。
大畑 智史	租税分野におけるマイナンバー制度	近年、世界的に行政など社会の多くの場面で ICT 化の動きが強まってきた。このような状況の中で、日本では、マイナンバー制度が 2015 年度に施行段階に入った。このマイナンバー制度と税制とが密接な関連性を持つことはよく知られているが、その詳細な関連性分析が求められる状況がある。三重県内の行政などの場面においてもマイナンバー制度は無視できない。以上のことから、本研究では、租税分野におけるマイナンバー制度の問題点とこれへの対策を考察する。2018 年度は、2017 年度に実施した当該分析をより精緻なものとする。この際、できるだけ、三重県などの地域における、本研究の主要論点についての事例分析も交えることとする。以上の分析は、租税分野におけるマイナンバー制度のより精確な運用につながるものと考えられる。
山田 徳広	三重県工業研究所が開発した新規セミドライフルーツ製造法を用いた津市内産を中心とした三重県産ナシ・ブドウのセミドライフルーツの開発と評価	三重県工業研究所・食と医薬品研究課では、マイクロ波処理（電子レンジ処理）と熱風乾燥処理を組み合わせた新規セミドライフルーツ製造法（MW 法）を開発し、津市内産や三重県産のナシ・ブドウを用いたセミドライフルーツの開発を進めている。 ナシとブドウは機能性を有するポリフェノール類を多く含んでいるが、その含量は加工中に分解して減少する事が知られている。 現段階において MW 法を用いた場合のポリフェノール含量の変動に関する研究は行われていない。 本研究は、津市内産を中心とした三重県産ナシとブドウを用て通常

		法または MW 法によるドライフルーツを製造し、そこに含まれる総ポリフェノール量を測定し、比較する。
相川 悠貴	運動が食欲や食事摂取に及ぼす影響	<p>【背景】運動は食欲や食事摂取に影響を及ぼすことが、多くの研究で報告されている。その中で、対象や運動様式、対象者心理によって、運動が食欲や食事摂取に与える影響は異なることが明らかになってきた。エアロビック・抵抗性混合リズム運動は、楽しく、身体に高負荷を与えられる運動であり、健康維持に有効な運動として知られている。</p> <p>【目的】エアロビック・抵抗性混合リズム運動が食欲と食事摂取に及ぼす影響を明らかにすることである。</p> <p>【方法】健康な人を対象に、安静後と 60 分のエアロビック・抵抗性混合リズム運動後の食欲と食事摂取を、交差試験により検討する。対象者は 8 人程度募集する。運動強度は心拍数の変動により評価する。心理尺度は POMS 2 短縮版を用いて評価する。食欲、疲労はビジュアル・アナログ・スケールを用いて評価し、食事摂取は被験食を自由摂取させて評価する。</p> <p>【予想される結果】60 分のエアロビック・抵抗性混合リズム運動後はイライラ感や抑うつ感が減少する。その満足感と運動による疲労により食欲が減少し、食事摂取量の増加が生じないことが予想される。</p> <p>【本研究の意義】体重減量に対する効果的な運動方法を提言する知見になり得る。これは、三重県民や三重短期大学学生の健康増進に繋がる知見となる。また、食物栄養学専攻学生と実施することで、卒業後三重県の健康増進に携わる者に、運動と食事に関する知識を身につけさせる成果も得られる。</p>
駒田 亜衣	三重県と和歌山県の南部に伝わる郷土料理の一考察 ～「馴れずし」を中心に特徴とその背景～	<p>熊野灘に面する、三重県において東紀州とよばれる地域と、和歌山県の東牟婁郡とよばれるこの二つの地域は、江戸時代には同じ紀州徳川家の統治下にあり、当然ながら政治的、経済的、文化的な繋がりがあり、かつ気候においても共通点がうかがえる。</p> <p>その他、郷土料理の側面からみても幾つか地域の繋がりの傾向を感じる点が多々ある。そこで本研究では、「馴れずし」をつくる地域への現地調査、および地域に残る資料から背景を追求し、その特徴を明らかにすることを目的とする。</p>

川崎 航史郎	地域産業を支える 建設・運輸・福祉労 働者の人材確保と 労働条件保障	運輸、建設、福祉産業は、地域の持続性の維持や、社会的インフラの整備にとって不可欠な産業であるが、近年、労働条件の悪化が進展し、人手不足に陥っている。これらの分野は多数の労働に依拠して産業が成り立っており、人手不足は産業の維持、ひいては地域社会の健全な維持にも支障をきたすため、労働条件の改善と人材確保は喫緊の課題である。研究手法としては、これらの産業の労働条件が労使自治によってではなく、発注者、公定価格に影響されることから、発注者の労働条件確保責任という観点から発注額の在り方を検討したい。
楠本 孝	ヘイトスピーチ解 消法を受けた地方 公共団体の課題	ヘイトスピーチ解消法4条2項は、地方公共団体に、本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、当該地域の実情に応じた施策を講じるよう努めることを求めている。さらに、5条2項は、相談体制の整備を、6条2項は教育活動の実施を、7条2項は住民に対する啓発活動実施を、地方公共団体に求めている。これら施策の具体的な内容を先進自治体の取り組みを素材として研究したい。
田添 篤史	三重県内における 地理的要因を明確 化したうえで 地域内格差変動に 関する研究	現在の日本では、従来からみられた属性が異なるの間での格差の増大に限らず、同属性の中での格差の増大がみられており、「断片化」が進行しているとされる。このような研究は日本経済を全体として分析するものが主流であり、地理的要因については捨象されがちである。本研究では統計データを利用しながら地理的な関係性を明確にしつつ、格差の変動を研究する。
武田 誠一	三重県内の社会福 祉法人が実施する 「地域における公 益的な取組」の実態 調査	社会福祉法人による「地域における公益的な取組」については、平成28年に成立した改正社会福祉法の規定に基づき、平成28年4月から、当該取組の実施が法人の責務として位置付けられている。現在、地域包括ケアシステムの深化が求められ、地域共生社会の実現に向け、地域の力、互助への期待が大きくなってきているが、そのような中で地域における福祉の拠点である社会福祉法人が「公益的な取組」として互助活動への支援が展開されると、活動の基盤強化につながるといえる。 そこで、本研究では三重県内の社会福祉法人が実施する「地域における公益的な取組」の実態の調査を行い、三重県内での先駆的な取組の発掘、また制度運営の課題など「地域における公益的な取組」を取り巻く状況を明らかにし、「地域における公益的な取組」が社会福祉法人、地域住民双方に機能するよう制度の実態を考察していく。

長友 薫輝	地域の医療保障・介護保障づくりの政策展開に関する調査～地域医療構想と地域包括ケアシステムの動向から～	地域医療構想と地域包括ケアシステムを両軸として、地域における医療と介護の体制整備が進められている。特に、2018年度は診療報酬と介護報酬の同時改定され、国民健康保険の都道府県単位化が始まった。このような時期において、実際に地域の医療保障・介護保障がどのように整備されているのか。これまで関わってきた秋田県鹿角市、福岡県北九州市・福岡市における地域調査を行い、各自治体の今後の政策展開に貢献することを目的として研究を進めたい。
北村 香織	占領期厚生省資料からみる社会福祉政策成立過程	現在の社会福祉制度の根幹は敗戦後の1945年以降に整備されたと考えられている。社会福祉政策の現状分析を行う際にも、その成立過程を明らかにしておくことは有益であると考えられる。そして、この時代の政策を分析するにあたっては、1945年から1952年のGHQによる占領政策と切り離すことができない。本研究では、とりわけ障害者福祉政策に着目し、現在収集している資料の整理を行った上で占領下の障害者福祉政策の動向について明らかにすることを目的とする。

●奨励研究員

奨励研究員名	研究テーマ	研究概要
小野寺 一成	地方都市再生に向けたコンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する研究（その3） ＝ 拠点論 ～集約型都市構造に向けたプロセスプランニング～ ＝ （仮）	昨年度に引き続き地方都市の再生に向け、重要な歴史的文化的資源と公的施設や都市機能が集積した城址周辺地区や商業業務地区を含む中心市街地及び地域拠点に着目して、コンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する知見を得ることを目的とする。 一昨年度収集した、都市機能が集積する城址周辺地区や商業業務地区において公共施設集約化等による先進的な都市づくりを行っている全国の事例、昨年度整理した全国地方都市を対象とした立地適正化計画における各種拠点の位置づけ、及び、津市を事例として検討を試みた考察をベースとして、今年度は全国の地方都市が目指す多核ネットワーク型都市を構築する地域拠点に着目する。先進自治体の取組を俯瞰し、拠点の役割と像、その実現に向けて様々な計画や事業との連携によるプロセスプランニングについてまとめる。 具体的・先進的な事例をもとに調査を行い、先行プロジェクトの背景やプロセスの特徴をまとめ、地方都市再生のあり方や再生手法を考察し、三重県及び津市などの持続可能なコンパクトシティの形成に向けた基礎的資料とする。

3 平成30年度 三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

1	記憶の心理学	人間の記憶はどのような働きをしているのでしょうか。簡単な心理学実験を交えながら、記憶過程についての心理学的知見を紹介します。	学長 東福寺一郎	
2	男女共存社会のすすめ	「共存社会」とは相手の存在を否定することなく、互いにそれぞれが望む生き方を受けとめ、その実現に向けて支えあう、少なくとも邪魔をしない社会であると考えます。 男女共同参画もその根底において「共存」の感覚が必要です。	学長 東福寺一郎	
3	心理学ミニ実験	心理学というとカウンセリングなどを真っ先に思い浮かべる方が多いですが、実際には様々な実験が行われています。この講座では、簡単な実験を経験することを通じて、心理学をより身近に感じていただくことをねらいとしています。実験テーマは条件等を勘案して決めます。	学長 東福寺一郎	高校生 向け
4	地方分権改革と地方自治	地域住民にとっても重要な「地方自治」のあり方を、近年実施されてきた地方分権改革の動向と絡めて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
5	生活保障のための政治行政システム	本来、政治や行政は、国民の社会生活を支えるためにありますが、近年、その不十分さが指摘されています。 「生活保障」という言葉をもとに、国民生活を支えるための政治行政のビジョンについて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
6	政治とは何か、行政とは何か	「政治」や「行政」とは何か、まずは政治学・行政学の立場から基本的なお話をし、そのうえで、日本など各国が抱えている主な課題をとりあげ、将来社会について考えます。	法経科 教授 立石芳夫	高校生 向け
7	外国人との共生について	入管法など外国人の法的地位に関する法制度を解説し、外国人の生活実態調査から見えてくることを通して、外国人との共生の在り方を考えます。	法経科 教授 楠本孝	
8	裁判員制度について	裁判員制度の概要を解説し、その問題点を検証します。 より良い制度にするために、どんな改善点があるかを一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	高校生も 対応可

9	少年非行について	巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？犯罪統計を基に検証します。 また、少年法適用年齢を18歳未満に引き下げることの是非についても一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	
10	契約に関する基本ルール	民法には、日常生活に密接に関連する規定が数多く規定されています。なかでも、契約に関連してくる基本ルールについて、具体例を用いて講義します。	法経科 講師 川上生馬	
11	家族に関する基本ルール	民法には、婚姻・離婚や相続に関するルールが定められています。各制度の基本ルールを紹介するとともに、判例を用いて、より具体的な場面における民法の機能について講義します。	法経科 講師 川上生馬	
12	職場における基本的ルール	働きだした若者が直面する職場でのトラブルをいくつか紹介し、働くルールを定める労働法の観点から、どのように問題解決を図るべきか、講義します。	法経科 准教授 川崎航史郎	高校生も 対応可
13	貧困の増加と生活保護の役目	「生活保護受給者が増えて危機的状況である」、さらには、「不正に利用している者がたくさんいる」、という話をよく聞きます。果たして本当でしょうか？生活保護の仕組みを法律の条文を参考にしながら、貧困者が増大する中での生活保護制度の意義と役割について考えてみましょう。	法経科 准教授 川崎航史郎	
14	人間らしい働きがいのある労働と生活には、何が必要か。	人が健康で文化的に生きていくためには、働く際の労働内容と、働けない時の社会保障（学生への奨学金政策も含む）が必要です。ところが、日本では、両方がうまく機能しなくなってきました。日本のこれまでの労働政策と社会保障政策を振り返り問題点を明らかにし、将来を展望し、どのような働き方と社会保障が望まれるか、考えてみましょう。	法経科 准教授 川崎航史郎	
15	ニュースでよく聞く「行政代執行」って何？	ニュースでよく取り上げられる「ゴミ屋敷」や、壊れそうで危険な「空き家」などに関連して、「行政代執行」という言葉を耳にします。これは、行政上の強制執行制度の一つとして、行政代執行法に定めがあります。この制度はどのような場面で、どのように使われているのでしょうか。それは、行政の実効性確保の手段として有効でしょうか。行政上の強制執行制度の現状等を考えます。	法経科 教授 藤枝律子	※平成30年 9月30日 まで

16	六法を引いてみよう	現代社会において、ある程度の法的知識を身につけておくことは非常に大切なことです。とはいっても、六法をめくってみると、文字ばかりで、なんだか難しそうな文章が並んでいるし、読む気にもならないかも知れません。本講座では、六法を実際に引いてみて、六法の使い方を学んでいただこうと思います。何か面白い発見ができるかもしれません。	法経科 教授 藤枝律子	※平成30年 9月30日 まで
17	国家賠償法とその判例	国家賠償法は、国や地方自治体の損害賠償責任に関するルールを定めています。国家賠償法の紹介をしながら、判例を取り上げ、国賠のもつ社会的な役割を考えます。	法経科 教授 藤枝律子	※平成30年 9月30日 まで
18	マーケティングを通じて自分の価値創造を高めよう	現代においてモノを売る時代からコトを売る時代へと変化しています。マーケティングを通じて自分の生活シーンをどう描いていくか考えていきましょう。	法経科 講師 鷺尾和紀	
19	10代から学ぶパーソナルファイナンスライフプランを考えようー	将来自分がどうなりたいのか。生活していくにはさまざまな費用がかかります。自分の将来設計を考えながらお金にまつわる話をしていきたいと思っています。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生向け
20	リレーションシップ・マーケティング	近年、サービス業が増加していく中、サービス内容・品質とお店と顧客との信頼関係が求められています。長い間お付き合いするためにはどういった距離感で接していいかサービス業独特の説明を致します。	法経科 講師 鷺尾和紀	
21	TPPと今後の貿易協定の行方	米国の離脱で発効できなくなったTPPですが、なぜ交渉をリードしていた米国は離脱したのか。そもそもTPPとは如何なる内容だったのかを学びながら、今後の日本の貿易協定の行方についても考えてみたいと思います。	法経科 教授 石原洋介	
22	東アジア共同体を考える	東アジアでは、EUのような地域共同体をつくる構想について検討を重ねています。その内容と議論をリードするASEANの役割を紹介しながら、日本とアジアの将来を考えてみたいと思います。	法経科 教授 石原洋介	
23	フェアトレードの挑戦	長年の先進国や国際機関からの援助にもかかわらず、世界にはまだ多くの貧しい人々が存在します。近年注目を集める、公正な取引を通じて貧困問題を解決する手法、フェアトレードについてお話します。	法経科 教授 石原洋介	高校生向け

24	「働き方・働かされ方」について考える	過労死、ワーキングプアをはじめとし、働くことに関して暗い話が多くあります。今日の働き方・働かせ方の状況はどのようになっており、その原因はどこにあるのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	
25	人間らしく働くこととは	1999年、ILOはディーセント・ワーク(人間らしく働く)を活動目標にしました。 「人間らしく働く」とは、どのようなことなのか、どのように現状を変えていったらよいのかを考えていきます。	法経科 准教授 杉山 直	
26	日本の社会的統合の在り方	どのような社会であれ、その社会が安定するには一定の形で社会全体が統合されている必要があります。日本はどのような形でそれを行ってきたか、そしてどのように変化しているのかをお話しします。	法経科 准教授 田添篤史	
27	経済学とは何か	経済学にはいくつかの学派が存在します。それぞれがどのような特徴をもっているのかを、経済学の歴史を振り返りながら解説します。	法経科 准教授 田添篤史	
28	税とは何か	税金は、われわれの日常生活に非常に密接な関わりがあります。本講義では、なぜ課税されるのか、など、税金に関する根本的な考え方について分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
29	マイナンバー制度の今後の課題	日本で、マイナンバー制度の活用が本格化してきています。本講義では、マイナンバー制度の今後の課題について、マイナンバー制度の概要、その民間活用、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
30	消費税の軽減税率を理解する	日本では、消費税軽減税率が近い将来に導入される予定です。本講義では、この仕組みの各種性質をわかりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
31	音楽を通してみるドイツ語の詩	ゲーテの詩をもとシューベルトが作曲した歌曲『魔王』は非常に有名で、音楽の授業で聴いたことがあるかもしれません。しかしこの他にも様々な『魔王』が存在します。この詩と歌曲の成立についての解説と歌曲の鑑賞を通してドイツ語と音楽の響きとリズムを味わいたいと思います。	法経科 准教授 今本幸平	

32	歌曲『ローレライ』 成立の背景	日本語唱歌としても知られるドイツ歌曲『ローレライ』は、19世紀にドイツで沸き起こった合唱ブームの中から生まれました。ドイツにおける合唱運動とはどのようなものか、また耳に馴染みのある旋律ほどには知られていない作曲者ジルヒャーや詩人ハイネの紹介と合わせて、この曲の成立の背景についてお話しします。	法経科 准教授 今本幸平	
33	イギリスの文学や 絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	法経科 教授 村井美代子	
34	「赤毛のアン」を 読み直す	1908年の出版以来、世界中で親しまれている「赤毛のアン」。出版直後から次々に続編が書かれ、仕事を持ち、結婚し、母になるアンの姿が描かれます。 女性が才能を開花させ、仕事と家庭を両立させていくことのむずかしさを、主人公アンの姿と作家モンゴメリの素顔を通して考えてみましょう。	法経科 教授 村井美代子	
35	あらすじで読み直 すイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、タイトルが半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。 本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	法経科 教授 村井美代子	高校生 も対応可
36	ビタミンとミネラ ルの話	食品中には、いろいろなビタミンやミネラル（無機質）が含まれています。食生活を豊かにするためには、それらの栄養素の働きを知ることは大切です。13種のビタミンとミネラルについて、体内での働きや多く含まれる食品についてわかりやすく解説します。	生活科学科 教授 橋本博行	
37	いろいろな食中毒 と予防方法	良く知られた食中毒として、サルモネラなどの食中毒菌やノロウイルスが原因のものがあります。一方、ジャガイモの芽など動植物に含まれる自然毒が原因の食中毒もあります。安全な食生活を送るために、具体的な食中毒の事例と予防方法について説明します。	生活科学科 教授 橋本博行	

38	魚を食べよう！ (ω -3 脂肪酸の話)	一般に ω -3 脂肪酸と言われている EPA, DHA, α -リノレン酸。生活習慣病予防の予防と治療の観点からこれらの脂肪酸が注目を集めています。 意外と知られていない ω -3 脂肪酸の害を含めて、上手なつきあい方を解説します。	生活科学科 教授 山田徳広	
39	糖尿病との付き合い方	糖尿病は怖い病気であると言われていています。それではなぜ、血糖値が上がると恐ろしいのでしょうか？筋肉運動がインスリンの代用をする事も意外と知られていません。糖尿病は上手に付き合いえば、長生き出来るのです。 糖尿病の病態を説明すると共に、食事と運動を組み合わせた糖尿病との付き合い方を提案します。	生活科学科 教授 山田徳広	
40	メタボリックシンドロームの現状と食生活による予防	メタボリックシンドロームはなぜいけないのか？ 体の中で行われる代謝の仕組みから考え、食生活による予防を目指します。 ワークショップを取り入れ、自分自身で実行可能な行動目標を立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	
41	食事をバランスよく食べよう！	バランスよく食べるためにはどうしたらいいのか？ 食事バランスガイドを使って、自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。 料理カードを使い、自分自身でバランスのよい献立を組み立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	
42	栄養士・管理栄養士とは？	栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。 栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学専攻の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。	生活科学科 准教授 阿部稚里	高校生 向け
43	メタボ健診受診のすすめと津市の健康課題	平成 20 年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。津市では毎年約 19,000 名近くの方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
44	海外での栄養士活動	途上国で青年海外協力隊の栄養士として過ごした 2 年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	

45	三重県の食状況について	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施されてきた県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国と比較しながらご紹介いたします。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、問題点や課題について一緒に考えたいと思います。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
46	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。地産地消の料理レシピを用いた調理実習などを通して健康づくりのための食品選択のポイントをご紹介します。	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
47	食物からの DNA 抽出実験	身近な食材（鶏レバー）から DNA を抽出して白い糸状の沈殿を観察してみましょう。（所要時間によってはパワーポイントスライドなどを併用し実験操作を短縮することも可能です。）	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生 向け
48	骨の健康を守るために	骨量は年齢とともに減少し、骨折しやすい状態になります。特に女性はホルモンの変化により骨量の減少が顕著です。骨の健康を維持するための食習慣、生活習慣についてお話しします。	生活科学科 助教 杉野香江	
49	自分に必要な栄養量を考える	人はそれぞれ必要なエネルギーや栄養素の摂取量が異なります。理想的な体重や、厚生労働省による日本人の食事摂取基準を確認しながら、自分に必要な栄養と食事、さらに健康づくりについて一緒に考えます。	生活科学科 助教 杉野香江	高校生 向け
50	ロコモを調べてロコモ予防	ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）とは運動器の障害により、移動機能の低下をきたした状態をいいます。ロコモ度テストで年代相応の移動機能を維持できているか確認し、ロコモ予防のための生活習慣について考えます。※体験型の講座のため、会場の広さや参加人数によって実施できない場合があります。	生活科学科 助教 杉野香江	
51	健康のための運動と食事	健康に生活するため、運動と食事は重要です。運動と食事が、脳、筋、脂肪、骨、その他臓器に及ぼす影響について説明し、身体を強くするために取り組んで頂きたい活動について紹介します。	生活科学科 助教 相川悠貴	高校生も 対応可

52	競技力向上のための栄養	スポーツの競技力を向上させるために、栄養は重要です。競技や目指す身体によって、理想の食事や栄養補給方法は異なります。「バランスの良い食事をしましょう。」に留まらないお話をしていきます。	生活科学科 助教 相川悠貴	高校生も 対応可
53	地域の医療や福祉のことを考える	アイスブレイク、ゲームなど社会福祉援助技術のグループワークという技術を用いて、地域の医療や福祉のことを考えるきっかけを提供します。	生活科学科 教授 長友薫輝	
54	働く前に知っておきたい社会保障のこと	アルバイトなど「働く」ということを通して社会に出る、その前に知っておきたい社会保障のことを考えてみませんか？ この社会で生活する上で知っておいて損はないことばかりです。	生活科学科 教授 長友薫輝	高校生も 対応可
55	障がい者って誰のこと？	普段何気なく使う「障がい者」とは、一体誰のことを指すのでしょうか。 視力が悪く、コンタクトを使っている人は障がい者だろうか？「障がい者」とは？ということを確認していく作業を通して、「障がい」とは何なのか、自分が暮らす社会に存在する、障がいのある人を支える仕組みについて考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も 対応可
56	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもとき、実際の制度を紹介しながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も 対応可
57	病院で「もうすぐ、退院です」と言われて慌てないために…	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
58	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生 向け

59	地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること	国は「自助・互助・共助・公助」による地域包括ケアシステムの整備を進めています。特に近隣住民による「互助」が強く求められています。そこで、私達の地域で何が可能か考えてみませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
60	人を援助する「私」を知る	地域で福祉ボランティアを始める際に理解しておくべき、対人援助場面でのコミュニケーションのあり方、心構えなど学びます。 そして、他者を支援する「私」を知ることの重要性を考えていきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	
61	生物多様性を考える	生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要さや深刻さが解消されたわけではありません。 「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
62	外来生物問題の環境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南 有哲	高校生も 対応可
63	住民参加とコミュニティ	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代に、その必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業を事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 准教授 小野寺一成	高校生も 対応可
64	都市計画とまちづくり ～持続可能なコンパクトシティに向けて～	まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。 また、人口減少化時代における持続可能なコンパクトシティに向けた取り組みを考えていきます。	生活科学科 准教授 小野寺一成	

65	まちづくりと景観計画	全国各地で都市景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、都市景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としての景観計画について紹介します。	生活科学科 准教授 小野寺一成	
66	共に住まう集合住宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 教授 木下誠一	
67	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	
68	個人情報の流出事件はなぜ起きる	毎年、複数の大規模な個人情報流出事件が発生しています。事件が発生した原因を解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	
69	プログラミング教育で何が変わるのか？	プログラミング教育の必修化により、プログラミングへの関心が高まっています。 プログラミング教育とは、どのようなもので、どのような能力が身に着くのか解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	高校生も 対応可
70	統計的な分析を日常で活用しよう	最近、大規模なデータ（ビッグデータ）を統計的に解析する仕組みが確立されています。言語データを中心に、大規模データを分析する仕組みを紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一郎	
71	援助のキホンー専門職の援助観を考えるー	この講座は、対人援助の現場で働く方向けに、人を支援する専門職の援助観を考えていくものです。 施設、事業所内での職員研修などを想定しています。	生活科学科 准教授 武田誠一	

2018年度(平成30年度)
三重短期大学地域連携センター年報
令和元年12月

発行 津市立三重短期大学 地域連携センター
〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地
TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647
E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp